

いそのかみつゆこ 石上露子 と じないまち 寺内町

じないまち
寺内町のシンボル

すぎやまけじゅうたく
「杉山家住宅」。

いえす
この家に住んでいた

すぎやまたか
杉山孝（タカ）さん

わかよさの
は、若いころ、与謝野

あきこかた
晶子と肩をならべる

しじんかじん
詩人・歌人でした。



タカさんは いそのかみつゆこ 「石上露子」 または 「うゆふちどり」と

いうペンネームでさかんに みょうじょう 「明星」 などの ぶんげい 文芸

ざっし 雑誌に し 詩や うた 歌を とうこう 投稿し、わか 若くしてかなり ゆうめい 有名になっ

ており、よさのあきこ 与謝野晶子とも しんこう 親交がありました。



もともと すぎやまけ 杉山家は つく 造り酒屋として さかや 寺内町一の じないまちいち 富豪であり、ふこう 明治15

(1882) ねんう 年生まれの さいのう タカは、そのなかで の 才能を伸ばしたのです。

しかしながら、親が決めた望まぬ結婚の後、夫から文学活動を禁止され、文壇から姿を消しました。

(夫と共に活躍した与謝野晶子と大きく違う点です。)

さらに、戦後の農地改革や経済の変化で杉山家は没落、夫や子どもが次々と亡くなるという悲運にみまわれるなか、タカは一人で杉山家を維持していましたが、昭和34(1959)年78歳で死去しました。

その後、富田林市が杉山家住宅を買い取って今のように保存され、国の重要文化財の指定を受けたのです。

では、杉山タカの代表作「**小板橋**」をよんでみましょう。

こいたばし
小板橋

ゆふちどり

ゆきずりの わが^{こいたばし}小板橋

しらしらと ひと^{えだ}枝のうばら

いづこより ^{なが}流れか^よ寄りし。

^{きみ}君まつと ^ふ踏み^{ゆうべ}し夕に

いひしらず ^し沁みて^{にほ}匂ひき。

^{いま}今はとて ^{おも}思ひ^{いた}痛みて

^{きみ}君が^な名も^{ゆめ}夢も^す捨てむと

なげきつつ夕^{ゆうべ}わたれば、

あゝうばら、あともとどめず、

^{こいたばし}小板橋 ひとり ゆらめく。

これは^{こいびと}恋人をおもう^{うた}歌です。

^{いしかわ}石川に ^{いた}板をかけた^{ちい}だけの^{はし}小さな橋のたもとで

^{こいびと}恋人が^{とお}通らないかと^ま待っている。

ふとみると どこからか^{なが}流れつuita「うばら（^の野ばら）」から

いいにおいがしてきて、よけいに^{きたい}期待がふくらむ。

つぎ^{ぎょう}次に1行あいているのは ^{じかん}時間の^{けいか}経過をあらわします。

けっきょく ^{こいびと}結局 恋人はこなかった。

その^{しつぼうかん}失望感・^{そうしつかん}喪失感を、

なが^さ流れ去った^の野ばらの^{えだ}枝、^{こいたばし}ゆらめく^{ひょうげん}小板橋で表現しています。

この歌は ^{うた}露子^{つゆこ}26^{さい}歳の^{さくひん}ときの作品です。